

# 生活文化スポーツ部

## 令和2年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
12	府中調布三鷹ラグビーフェスティバル2020	実行委員会	ラグビーフェスティバル実行委員会	オリンピック・パラリンピック担当
13	「調布市×サウジアラビア王国 ホスタウンフレーム切手」の販売	事業協力	日本郵便株式会社, サウジアラビア王国大使館文化部	オリンピック・パラリンピック担当
14	調布市・木島平村姉妹都市盟約35周年記念事業	共催, 事業協力	木島平村, 一般財団法人木島平村農業振興公社	文化生涯学習課
15	市民団体等との連携による平和祈念事業の開催	共催	株式会社タキオンジャパン, 調布市原爆被害者の会, 調布平和のつどい実行委員会	文化生涯学習課
16	国際交流事業の実施	共催, 補助・助成, 指定管理・業務委託	調布市国際交流協会	文化生涯学習課
17	「パラハートちょうふ」の推進	事業協力	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団, 調布市福祉作業所等連絡会…他	文化生涯学習課
18	サウジアラビアとの文化交流	事業協力	サウジアラビア王国大使館文化部	文化生涯学習課
19	市民との連携による生涯学習のきっかけづくり	事業協力, 指定管理・業務委託	地域デビュー推進委員会, 各生涯学習サークル	文化生涯学習課
20	「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」関連事業団体との連携	共催, 事業協力	調布市文化協会…他	文化生涯学習課
21	フードドライブの実施	事業協力, 情報交換・情報提供	調布市消費者団体連合会, 調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会	文化生涯学習課
22	食品ロス削減に向けた取組	事業協力	ニチバン株式会社	文化生涯学習課
23	消費生活講座	共催	東京都	文化生涯学習課
24	調布市文化・コミュニティ振興財団との連携	共催, 指定管理・業務委託	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	文化生涯学習課
25	相互友好協力協定締結大学定例会	事業協力, 情報交換・情報提供	相互友好協力協定締結大学	文化生涯学習課
26	調布市協定大学ゼミ展	事業協力	相互友好協力協定締結大学	文化生涯学習課
27	相互友好協力協定締結大学との連携	共催	相互友好協力協定締結大学(電気通信大学)	文化生涯学習課

## 令和2年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
28	ちょうふ地域コミュニティサイトの運用	指定管理・業務委託	特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム	協働推進課
29	ふれあいの家の管理運営	指定管理・業務委託	ふれあいの家運営委員会(18施設)	協働推進課
30	コミュニティ推進事業	補助・助成	調布市自治会連合協議会	協働推進課
31	自治会といっしょに！キャンペーン	事業協力	調布市自治会連合協議会	協働推進課
32	市民活動支援センターの運営	指定管理・業務委託	社会福祉法人調布市社会福祉協議会	協働推進課
33	いやしとふれあいの旅事業 (宿泊料金の割引, 調布発着のバスツアー)	事業協力, 情報交換・情報提供	京王観光株式会社, さくら観光株式会社	協働推進課
34	市民向けパソコン・タブレット講座	事業協力	調布パソコンサークル	協働推進課
35	調布まち活フェスタ	実行委員会, 事業協力	まち活フェスタ実行委員, 調布市市民活動支援センター	協働推進課
36	男女共同参画推進フォーラム「しえいくはんず」の開催	共催	男女共同参画推進フォーラム実行委員会	男女共同参画推進課
37	女性の「キャリア研究」についての講演	事業協力	白百合女子大学	男女共同参画推進課
38	女性のための起業セミナー	共催	日本政策金融公庫, 多摩信用金庫	男女共同参画推進課
39	LGBTセミナー	事業協力, 情報交換・情報提供	電気通信大学, 津田塾大学, NTT技術総合研究所, アフラック生命保険株式会社	男女共同参画推進課
40	市内映画・映像関連企業や市民団体等と連携した「映画のまち調布」の推進	共催, 実行委員会, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	角川大映スタジオ, 日活調布撮影所, 子どもたちと映画寺子屋, 調布シネマクラブ, ねぶくろシネマ実行委員会…他	産業振興課
41	商店街活性化の推進事業	共催, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	市内商店会, 市内事業者, 調布市商工会, 調布青年会議所	産業振興課
42	商工会事業の支援	共催, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	調布市商工会	産業振興課
43	調布駅前から盛り上げる会	事業協力, 情報交換・情報提供	調布駅前から盛り上げる会(調布駅前商店街, 京王電鉄株式会社, イオンエンターテイメント株式会社, 調布市商工会, 公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団…他)	産業振興課
44	観光協会事業の促進	共催, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	調布市観光協会	産業振興課
45	「水木マンガの生まれた街 調布」の推進	共催, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	株式会社水木プロダクション, 鳥取県, 境港市, 東映アニメーション株式会社, 調布市観光協会…他	産業振興課

## 令和2年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
46	ICTを活用した情報発信による観光振興及び地域経済活性化促進事業(調布市・一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団インバウンド観光推進に関するパートナーシップ協定)	事業協力, 指定管理・業務委託	一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団	産業振興課
47	就労支援セミナー等の開催	共催	ハローワーク府中, 厚労省東京労働局, 東京都労働相談情報センター八王子事務所…他	産業振興課(産業労働支援センター)
48	金融機関と連携した民間ノウハウを活用した中小企業支援事業	事業協力	多摩信用金庫, 三井住友銀行, りそな銀行, みずほ銀行及びみずほ信託銀行, 西武信用金庫	産業振興課(産業労働支援センター)
49	調布市体育協会事業の支援	共催, 補助・助成, 指定管理・業務委託	公益社団法人調布市体育協会	スポーツ振興課
50	FC東京「調布の日」事業	共催, 情報交換・情報提供	東京フットボールクラブ株式会社	スポーツ振興課
51	FC東京による地域貢献活動支援	共催, 事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供	東京フットボールクラブ株式会社	スポーツ振興課

協働事業名	府中調布三鷹ラグビーフェスティバル2020	所管部課名	生活文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック担当
事務事業名	オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップのレガシー創出に向けた調査検討と機運醸成	電話番号	042-481-7447
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
ラグビーワールドカップ2019 <sup>TM</sup> 日本大会による盛り上がりや、東京2020オリンピック・パラリンピックへとつなげ、両大会終了後もラグビーに対する市民意識の高揚と、新たなラグビーファン層の開拓を図るため、両大会の競技会場である味の素スタジアムの近隣自治体3市（調布市・府中市・三鷹市）が実行委員会を組織し、イベントを開催した。東芝プレイブルーパス対クボタスピアーズによるトレーニングマッチや、トークショーなどを実施し、ラグビーを身近に感じることができた場となった。			
協働のパートナー	ラグビーフェスティバル実行委員会 （府中市、三鷹市）		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 オリンピック・パラリンピック ラグビーワールドカップ <sup>TM</sup>
			関連施策※ 14市民スポーツの振興
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、各団体のPRブース出展、広報	
	市の役割	事業の企画・運営、調布市PRブース出展、市内広報	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 複数の社会人ラグビーチームの活動拠点である府中市から、ラグビーワールドカップ2019 <sup>TM</sup> 日本大会・東京2020大会に向けて地元市で連携した機運醸成を図りたいと提案があり、イベントを開催している。		
協働したことによる成果			
ラグビーフェスティバル2020では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各市150人の定員制としたが、全市において上限を大きく上回る応募があり、抽選を実施した。このことから、3市における市民のラグビーへの高い関心を感じることができた。また、社会人ラグビートップリーグチームやその活動拠点である自治体等の協力により、迫力あるラグビーの試合を身近に体感する機会を設けることができたとともに、来場者に、各市の大会に向けた取組、観光情報、3市連携によるラグビー競技普及事業をPRすることができた。			
協働に当たっての課題と対応			
イベントの企画・運営をより円滑に実行できるよう、企画内容の早期決定や、各主体との早期調整などを図る必要がある。			

協働事業名	「調布市×サウジアラビア王国 ホストタウンフレーム切手」の販売	所管部課名	生活文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック担当
事務事業名	オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップのレガシー創出に向けた調査検討と機運醸成	電話番号	042-481-7447
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
東京2020大会において、調布市がサウジアラビア王国のホストタウンに登録されていることを広く周知するため、日本郵便株式会社との連携により、サウジアラビア王国大使館文化協力ののもと、オリジナルフレーム切手を作成した。このフレーム切手は、調布市とサウジアラビア王国による交流事業の様子などが描かれ、市内の郵便局を中心に500シートが販売された。			
協働のパートナー	日本郵便株式会社、サウジアラビア王国大使館文化協		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 オリンピック・パラリンピック
			関連施策※ 30平和・国際交流施策の推進
役割分担	パートナーの役割	切手の作成・販売、画像データの提供	
	市の役割	パートナー間の調整、市内広報	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 東京2020大会に向けた機運醸成及びホストタウン事業の促進を図るために実施した。		
協働したことによる成果			
調布市とサウジアラビアとの交流について、フレーム切手の販売という形で市民に広く周知することができた。また、東京2020大会の開催に向けた市民の機運を醸成することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
東京2020大会後も、調布市とサウジアラビアとの交流発展に向け、パートナーと新たな企画を検討する必要がある。			

協働事業名	調布市・木島平村姉妹都市盟約締結35周年記念事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	姉妹都市交流事業	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布市・木島平村姉妹都市盟約締結35周年記念事業として、市内の大学生に木島平産米を提供する「調布市内の大学生お米で応援プロジェクト」、村の事業者支援及び市民に特産品を通して村を知ってもらう機会として、送料無料・数量限定・定価の3割引きで村の特産品セット合計1,064セットを販売する「木島平村特産品セット特別販売」、第41回木島平村民祭の前夜祭として、木島平村と合同で花火打ち上げを行う「調布市・木島平村姉妹都市盟約35周年記念花火大会」を実施した。			
協働のパートナー	木島平村，一般財団法人木島平村農業振興公社		事業提案者 市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 文化
			関連施策※ 19芸術・文化の振興
役割分担	パートナーの役割	事業の企画調整	
	市の役割	事業の企画調整，広報	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 調布市・木島平村姉妹都市盟約締結35周年記念事業として実施。		
協働したことによる成果			
新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント等の企画が難しい状況の中でも、パートナーと協働し、木島平村の特産品等を活用することにより、多くの市民に木島平村の魅力を知ってもらう機会を提供することができた。			
協働に当たった課題と対応			
今後も周年事業においては、より多くの市民に事業に参加いただき、村の魅力を知っていただくためにも、より参加者の満足度の高い企画となるよう、各パートナーと検討を重ねていく必要がある。			

協働事業名	市民団体等との連携による平和祈念事業の開催	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	平和祈念事業	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
広く市民に戦争や平和について考えるきっかけを作るため、戦争・平和に関する映画の上映、俳優らによる朗読、広島からの被爆体験伝承者及び長崎からの家族証言者による講話等を実施する「調布市平和映画・朗読会」を開催した。また、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」及び「調布市原爆被害者の会（調友会）創立50周年」を記念し『「調布平和の祭典」につなぐ催し』を実施した。			
協働のパートナー	株式会社タキオンジャパン（調布市平和映画・朗読会） 調布市原爆被害者の会、調布平和のつどい実行委員会（「調布平和の祭典」につなぐ催し）		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 平和
			関連施策※ 30平和・国際交流施策の推進
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・事業の実施・会場全体の運営	
	市の役割	事業の企画・広報・会場提供	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 「調布市国際交流平和都市宣言30周年」及び「調布市原爆被害者の会（調友会）創立50周年」を記念し、実施した。		
協働したことによる成果			
戦争体験者の高齢化により、戦争体験を聞く機会が少なくなっているが、市内の映像制作会社である株式会社タキオンジャパンと連携することにより、被爆体験伝承者や家族証言者から講話を聞く機会を設けることができた。『「調布平和の祭典」につなぐ催し』については、市民団体の活動を市民に知っていただくとともに、平和都市宣言の普及・啓発やピースメッセンジャー2019の派遣報告動画の上映・展示を行うことで、市の平和祈念事業の取組をPRすることができた。			
協働に当たった課題と対応			
若年層を含め、幅広い世代の市民に平和祈念事業へ参加し「平和」や「戦争」について考えていただく機会となるよう、広報等に力を入れていく必要がある。			

協働事業名	国際交流事業の実施	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	国際交流の促進	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
本事業は、調布市国際交流協会が主体となり、外国人が日本の伝統文化に触れ、日本の良さを知ってもらうことを目的に実施している。令和2年度は、外国人留学生との交流事業を実施したほか、新たに国際交流平和都市宣言30周年記念事業を業務委託し、宣言文の多言語翻訳、宣言PR動画の制作、宣言啓発グッズ制作、国際交流協会事業における宣言に触れる機会づくりの取組を行った。			
協働のパートナー	調布市国際交流協会		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 国際交流
			関連施策※ 30平和・国際交流施策の推進
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・実施、事業参加者（外国人会員・留学生ボランティア）の募集、宣言文の中国語・韓国語への翻訳、宣言30周年記念グッズの作製	
	市の役割	事業の運営補助、広報	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 令和2年度は、例年の事業に加えて、「調布市国際交流平和都市宣言30周年記念事業」を新たに実施。		
協働したことによる成果			
日頃の活動から国際交流事業にノウハウやネットワークを持つパートナーである調布市国際交流協会との共催により、パートナーの専門性を活かした事業を実施することができた。また、国際交流平和都市宣言のPR動画制作においては、各言語を母語とする出演者を国際交流協会に選出いただき、7カ国計15名に出演していただくことができた。			
協働に当たった課題と対応			
パートナーである調布市国際交流協会が中心となって事業を実施しており、パートナーと市との円滑な連携が取れている。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各関係者の動画出演等に関して、急な予定変更が余儀なくされ、柔軟な対応が必要となったが、これまで他の事業においても連携してきたパートナーと事業を実施したことで、円滑な調整等の対応を図ることができた。			

協働事業名	「パラハートちょうふ」の推進	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	文化振興事業の支援	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市は、「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズのもと、共生社会の実現に向けた様々な取組を展開している。令和2年度は、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団が実施した「調布・巡る・アートプロジェクト」において、過去のパラアート展で展示した作品を展示したほか、デジタルスタンプラリー参加店舗において、パラハートのロゴと取組を象徴するアートデザインを使用して「調布駅前商店街」・「調布駅前から盛り上げる会」が制作したエコバックの販売を行い、「パラハートちょうふ」の普及啓発につなげた。			
協働のパートナー	調布市福祉作業所等連絡会、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団、 「調布駅前商店街」・「調布駅前から盛り上げる会」		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 文化
			関連施策※ 19芸術・文化の振興
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・作品募集、パラハートちょうふロゴ等の活用	
	市の役割	広報、福祉作業所との連絡・調整	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 令和元年度に市が掲げた「パラハートちょうふ」のキャッチフレーズのもと、芸術文化の取組を通じた共生社会の推進につながる取組を関係団体と連携を図り、実施している。		
協働したことによる成果			
新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、当初のパラリンピック開催期間にあわせて実施を予定していたパラアート展は中止としたが、「調布・巡る・アートプロジェクト」と連携することで、過去のパラアート展で展示したトフルや、市内福祉作業所が制作した作品を展示することができた。さらに、作品を通して、それぞれの個性・美しさ・芸術性を感じていただく機会とし、共生社会の推進に向けた取組の効果的なPRを図ることができた。また、市内事業者との連携による「パラハートちょうふ」の普及啓発を行うことができた。			
協働に当たった課題と対応			
本取組により多くの事業者や団体、市民に関わっていただき、取組の普及啓発につなげていくことが重要である。			

協働事業名	サウジアラビアとの文化交流	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	国際交流事業の促進	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年実施しているサウジアラビア文化展は中止とした一方、「調布市国際交流平和都市宣言30周年」を記念して、宣言文のアラビア語翻訳や、サウジアラビアからの留学生にも出演していただき、宣言PR動画の制作を行った。また、調布市とサウジアラビア王国との交流の歴史やアラビア文化等をまとめた冊子「調布市とサウジアラビア王国の交流の軌跡」を作成した。			
協働のパートナー	サウジアラビア王国大使館文化部		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 国際交流
			関連施策※ 30平和・国際交流施策の推進
役割分担	パートナーの役割	留学生ボランティアの募集、アラビア語翻訳、資料等の提供	
	市の役割	企画・運営、広報	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 2002FIFAワールドカップにおいて、調布市がサウジアラビア王国代表チームのチャンプ地となったことを契機に、様々な文化交流事業を実施している。令和2年度は「調布市国際交流平和都市宣言30周年記念事業」を新たに実施。		
協働したことによる成果			
サウジアラビア王国大使館文化部と連携することにより、これまでの交流の歴史やあまり知られていないアラビア文化を紹介する冊子を作成することができた。また、宣言文のアラビア語翻訳や宣言PR動画への留学生の出演など、今までとは異なる事業への協力をいただき、コロナ禍においてもサウジアラビア王国との交流について、広く発信することができた。			
協働に当たった課題と対応			
新型コロナウイルス感染拡大の影響により対面での打合せが難しくなってしまったが、メールや電話で密に連絡を取り合うことで、滞りなく進めることができた。企画内容等の検討の際には、ラマダーン等に関連して打合せができなくなってしまう期間があったりと、臨機応変な対応が必要となる場面が多いため、相手方の文化を理解したうえで、余裕を持った準備期間を設け、より効率的な連携に向けて配慮する姿勢が必要である。			

協働事業名	市民との連携による生涯学習のきっかけづくり	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	生涯学習や市民活動の啓発	電話番号	042-481-7745
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
シニア層の生きがいや地域との関わりを持つきっかけづくりの機会を提供することを目的として、「地域デビュー事業」及び「生涯学習サークル体験事業」を実施した。「地域デビュー事業」では、市民の自主的なまちづくり活動を推進するため、対象者と同世代の市民有志による委員会を組織し、各種講座を実施した。「生涯学習サークル体験事業」は、市民が実際のサークル活動に参加し、体験してもらうものであり、市が事務局として参加者の募集を行い、サークル体験の運営は生涯学習サークルが行った。			
協働のパートナー	地域デビュー推進委員会、各生涯学習サークル		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	生涯学習サークル体験の企画・運営、地域デビューに係る講座の企画・運営	
	市の役割	市報等による参加者の募集、地域デビューに係る講座の参加者募集・受付、会場提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い一部事業が中止となったが、地域デビュー事業は平成18年度から、生涯学習サークル体験事業は平成17年度から開催している。		
協働したことによる成果			
シニア層や地域活動への参加を希望する市民にとって、地域活動や同世代とのコミュニケーションの楽しさを見出す機会となり、地域活動への参加や地域での仲間づくりを促すことにつながった。地域デビュー事業の企画・運営を行っている推進委員もシニア層の方々が中心となっており、シニア層が地域で活躍する場を提供することにもなっている。			
協働に当たった課題と対応			
地域デビュー事業は、講座内容が同様のテーマとならないよう、幅広い内容を企画していく必要がある。そのため、これまでの実績を活用したうえで、同年代が注目し、話題性のあるテーマ選定につなげていけるよう、更なる情報共有に努めていく。生涯学習サークル体験は、体験事業を実施するサークルが固定化してきているため、体験事業未実施のサークルと協働での実施ができるよう、サークルへの周知を進めるとともに、より効果的な広報展開を検討していく。			

協働事業名	「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」関連事業団体との連携		所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	文化振興事業の支援		電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
市は、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」を行い、子どもから大人まで誰もが芸術文化を育むことができる場・つながる機会をより一層創出・支援するまちづくりに取り組んでいる。平成29年度には宣言のシンボルマークを市民投票で決定し、宣言に基づき、市民に芸術文化に触れられる様々な機会を提供する団体と共催や事業協力により連携し取り組んだ。宣言の啓発とともに調布市の魅力を発信するために活用している。				
協働のパートナー	調布市文化協会ほか		事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	文化
			関連施策※	19芸術・文化の振興
役割分担	パートナーの役割	東京2020大会に向け宣言の啓発及び調布市の魅力を発信するとともに、市民の芸術・文化活動を支援する		
	市の役割	市報・市ホームページ等による広報、市内公共施設へのチラシ・ポスター配布		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 宣言のシンボルマークを市の事業に使用するとともに、市民団体等が実施する事業にも使用いただき、宣言及び宣言に基づく取組のPRを図っている。			
協働したことによる成果				
調布市文化協会をはじめ、各市民団体との共催により、市民文化祭等を実施し、地域の魅力を高めるとともに、市民が身近に芸術・文化に触れる機会を創出した。多数のイベントの中止を余儀なくされた令和2年度の状況下においても、市民文化祭を無観客として、映像配信するなどの新たな試みを実施することで、コロナ禍における市民の文化・芸術活動に対する機運維持につながった。				
協働に当たった課題と対応				
「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」及び宣言シンボルマークの市民への更なる普及・周知が必要であり、スポーツ振興課と連携しながら、より市民団体が使用しやすいよう利用方法の見直しを検討するとともに、宣言に基づく市民の活動として、より積極的なPRを行えるよう、市の情報発信の充実を図る。				

協働事業名	フードドライブの実施		所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	消費者啓発事業		電話番号	042-481-7140
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスの削減及びその活用を目的として、家庭や事業者から持ち寄った食品を市内福祉施設等へ提供するフードドライブを調布市消費者団体連合会及び調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会と連携し、年数回実施している。令和2年度は、3回実施した。				
協働のパートナー	調布市消費者団体連合会、調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会		事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	消費生活
			関連施策※	03消費生活の安定と向上
役割分担	パートナーの役割	運営補助、広報活動、食品の分配		
	市の役割	場所の提供、広報活動、その他全体調整		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成26年度に試行実施後、平成28年度から単独で開催し、平成29年度以降、定期的に年4回程度実施している。			
協働したことによる成果				
消費者団体や地域公益活動連絡会と連携を図ることにより、各々の情報発信ツールを使い、広く活動の周知を図ることができた。市民の食品ロスへの意識が高まり、多くの食品が集まった。また、食品の分配先である福祉施設の状況を把握している同連絡会の協力を得られたこともあり、集まった食品を無駄にすることなく必要とする方々に届けることができ、食品の有効活用につながった。				
協働に当たった課題と対応				
市民一人一人が問題意識を持ち、食品ロス削減のため主体的に取り組んでもらえるよう、更なる食品ロス削減への取組や普及啓発活動が必要となってくる。食品ロス削減とその有効活用を目的としているフードドライブだが、今後は部署を超えての横断的な連携も必要となってくるため、関係部署との情報共有や連携を強化していく必要がある。さらに、市民団体「フードバンク調布」とも情報共有し、連携を図っていく。				

協働事業名	食品ロス削減に向けた取組	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	食品ロス削減に向けた取組	電話番号	042-481-7140
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市が取り組む食品ロス削減に向けた啓発活動に、ニチバン株式会社が作成した、食品ロス削減への取組を推進する、食品ロス削減国民運動キャラクター「ろすのん」仕様のワザアリTMテープを活用することで、食品ロス削減に向けた取組を広く周知する。			
協働のパートナー	ニチバン株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 消費生活
			関連施策※ 03消費生活の安定と向上
役割分担	パートナーの役割	啓発グッズの提供、広報活動	
	市の役割	事業の企画、運営、広報活動	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 食品ロス削減へ向けての普及・啓発活動を行うため。		
協働したことによる成果			
幅広い年代に、様々なイベント等を通じて食品ロス削減に向けた啓発活動を行うことで、食品ロス削減の取組を身近に感じてもらい、食品を大切に消費することの重要性を意識してもらえるような発信ができた。			
協働に当たった課題と対応			
市民一人一人が問題意識を持ち、食品ロス削減のため主体的に取り組んでもらえることを目指す。食べ物を無駄にしないよう様々な機会において広く周知を図り、市民にできることから取り組んでもらえるよう、啓発を進めていく。			

協働事業名	消費生活講座	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	消費者啓発事業	電話番号	042-481-7140
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
多くの市民が消費生活に関する様々な知識を習得し、自主的な行動ができ、健全な消費生活を営むことができるよう支援することを目的として、東京都と共催で消費生活講座を実施している。市が企画・提案した内容に基づき、東京都が講師の手配、謝礼支払及び実験実習講座であれば器材準備などを担っている。			
協働のパートナー	東京都		事業提案者 市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 消費生活
			関連施策※ 03消費生活の安定と向上
役割分担	パートナーの役割	講師派遣、謝礼の支払い、実習講座の器材準備	
	市の役割	講座の企画・運営、会場・設備の提供、広報活動・その他調整	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 東京都の事業実施経験に基づき、市の企画する講座内容に合う講師を紹介してもらい、講座を実施している。		
協働したことによる成果			
東京都と共催する消費生活講座のほかに、市単独開催の消費者講座も実施しているが、東京都と共催することで、より多くの市民への学びや情報提供の場とすることができた。また、テーマや講師選定に関しては、東京都のこれまでの実績などから、幅広いテーマやそれに合致した講師を紹介をしてもらうことで、より充実した講座実施が可能となる。			
協働に当たった課題と対応			
講座内容が同様のテーマとならないよう、幅広い内容を企画していく必要がある。そのため、東京都のこれまでの実績等を活かし、共催ならではのテーマ選定につなげていけるよう、更なる情報共有に努めていく。			

協働事業名	調布市文化・コミュニティ振興財団との連携		所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	文化振興事業の支援		電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づき、市民が優れた芸術・文化に触れたり、気軽に芸術・文化活動に取り組むことができるようにすることを目的に、（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団との共催により、一部オンライン配信等を交えながら、@調布国際音楽祭2020、第65回調布市民文化祭、映画のまち調布 シネマフェスティバル2021等を開催した。各事業の開催に当たっては、調布市文化・コミュニティ振興財団と協力し、開催に向け検討を行い、役割分担を行った。				
協働のパートナー	公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団		事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	文化
			関連施策※	19芸術・文化の振興
役割分担	パートナーの役割	各事業の企画・運営、各事業への参加者募集		
	市の役割	各事業の企画・運営に関する支援、市報掲載等による広報		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 予約制の導入や、参加人数の制限、オンラインワークショップ、映像配信の実施など、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで、様々な工夫を凝らしながら事業を実施した。			
協働したことによる成果				
文化事業の運営に実績のある調布市文化・コミュニティ振興財団との共催や、業務委託することによって、魅力のある事業の企画・運営が図れ、参加者の増加などの効果があった。令和2年度は、「たづくりアスリートワンダーウォール!」、「調布能楽 odyssey」、「クリエイティブリユースでアート!」等を実施し、東京2020大会の機運醸成を図ったほか、「調布・巡る・アートプロジェクト」により、市内福祉作業所等とも連携した共生社会の推進と美術鑑賞へのアクセシビリティ向上を実現した。				
協働に当たった課題と対応				
パートナーである調布市文化・コミュニティ振興財団は、文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場の指定管理者として、当該施設の管理・運営を担っている団体である。各共催事業の準備に限らず、市と定期的に打合せ等を行っており、日頃から意思疎通を図ることで、各共催事業においても、円滑な運営につながっている。				

協働事業名	相互友好協力協定締結大学定例会		所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	市民が主役のまちづくり大学事業		電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
文化、教育、学術、スポーツ、芸術、国際交流の分野で援助・協力し、相互発展を図ることを目的に相互友好協力協定を締結している地域の大学と、連携の相談及び情報交換のために定例会を開催している。				
協働のパートナー	相互友好協力協定締結大学		事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	生涯学習
			関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・事業の実施		
	市の役割	事業の企画・参加者募集・会場提供		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 相互友好協力協定締結大学との連携を深めていくために、平成22年度から実施している。			
協働したことによる成果				
令和2年度は計3回の会議を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、オンライン開催とした。開催に当たっては、各担当課から案件を募集し、情報交換の場を設けたことで、連携につなげることができた。				
協働に当たった課題と対応				
相互友好協力協定締結大学との連携に関する市民への情報発信に課題があり、連携実績等を積極的に市ホームページで公開していく必要がある。オンライン開催においても、対面開催と同様にスムーズな意見交換ができるような司会進行に努める必要がある。				

協働事業名	調布市協定大学ゼミ展	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	市民が主役のまちづくり大学事業	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
相互友好協力協定締結大学の研究成果や学びを市民に発表することで、新たな学びの機会を創出することや、相互友好協力協定締結大学と市民との接点をつくり、大学と地域とのつながりを強化することを目的とし、学生による展示、ワークショップ、発表を行っている。 令和2年度は、令和元年度に実施した協定大学ゼミ展の様子を、第7回調布まち活フェスタ（オンライン開催）において動画で紹介した。また、開催日当日、白百合女子大学の児童文化学科制作ゼミが生出演し、ゼミの取組を紹介した。			
協働のパートナー	相互友好協力協定締結大学		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・事業の実施	
	市の役割	事業の企画・広報・会場提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 相互友好協力協定締結大学の魅力を市民に分かりやすく伝え、地域の大学に親しみを持ってもらうとともに市との連携をPRするため、令和元年度に実施した協定大学ゼミ展の様子を紹介した。		
協働したことによる成果			
オンライン開催となった調布まち活フェスタに参加することにより、まち活フェスタ全体を通して2,713件の視聴をしてもらうことができた。また、若年層の参加も見られた。			
協働に当たっての課題と対応			
継続して事業を実施していくためにゼミ単位での連携や学生が参加しやすい開催時期の検討が必要である。また、コロナ禍でオンライン開催となった場合に新規コンテンツを提供できるのか協定大学と検討が必要である。			

協働事業名	相互友好協力協定締結大学との連携	所管部課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課
事務事業名	市民が主役のまちづくり事業	電話番号	042-481-7139
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
相互友好協力協定を締結している大学の特色を活かし、市民の新たな学びの機会の創出や大学との連携についての認知度を高めるために各大学と事業を企画、実施している。			
協働のパートナー	相互友好協力協定締結大学 （電気通信大学）		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	企画・イベントの開催・会場全体の運営	
	市の役割	企画・イベント・広報の協力	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 「サイエンスカフェChofu」は平成29年度から実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴いオンラインで一度のみの実施となった。		
協働したことによる成果			
電気通信大学と共催した「サイエンスカフェChofu」は初のオンラインで開催した。遠隔地からの参加もあり、オンラインによる参加者層の広がりを見せた。			
協働に当たっての課題と対応			
「サイエンスカフェChofu」については、相互友好協力協定締結大学へ講師の協力依頼をするなど、内容の充実を図る。コロナ禍においてもオンラインを活用した各大学との連携を検討していく。			

協働事業名	ちょうふ地域コミュニティサイトの運用	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課	
事務事業名	生涯学習情報システム（さがす見つかるシステム）の活用	電話番号	042-481-7036	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
「調布市生涯学習情報システム（さがす見つかるシステム）」の再構築を行い、平成29年4月に地域ポータルサイトとして「ちょうふ地域コミュニティサイト ちょみっと」を運用開始した。地域に密着した情報を広く発信できるサイトとするため、市内の市民団体とのネットワークを持ち、地域活動にも幅広い見識を持つパートナーであるNPO法人に業務委託し、運用及び活用促進を図っている。				
協働のパートナー	特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム	事業提案者	市	
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	コミュニティ
			関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	課題の抽出・共有・検討、情報共有、改修作業		
	市の役割	課題の抽出・共有・検討、情報共有、会議の運営		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 市民活動支援センターホームページ開設等の実績を持ち、地域活動にも幅広い見識を持つNPO法人をパートナーとしている。			
協働したことによる成果				
パートナーであるNPO法人は、市民団体としての側面も有しているため、その提案及び意見は市民ニーズに近いものであり、システムの機能改善及び活用促進等の提案を受けることができた。広範囲にわたる地域情報の中から市民が必要とする情報を発信していくことや、地域団体がシステムを使って情報発信する仕組みを整えていくことが重要であり、調布市の地域の特色・情報に精通しているパートナーの知識や経験を活かし、運用を行うことができた。				
協働に当たった課題と対応				
多様化する市民活動やライフスタイルに対応するため、今後も機能・運用方法・活用方法等についてパートナーと引き続き検討し、共通認識を持って改善を図る必要がある。				

協働事業名	ふれあいの家の管理運営	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課	
事務事業名	ふれあいの家の管理運営	電話番号	042-481-7122	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
ふれあいの家は、小規模かつ身近な集会施設として、自治会等の地域住民で組織された各ふれあいの家運営委員会が指定管理者となり、それぞれの施設の管理運営を行っている。地域住民である運営委員会が使用申請に対する承認、利用料金の受領、カギの受け渡し、軽微な修繕等の管理業務を行うことで地域のニーズに応じた柔軟な対応や利用者にとって親近感のある管理運営が実施されている。				
協働のパートナー	ふれあいの家運営委員会（18施設）	事業提案者	市	
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	コミュニティ
			関連施策※	15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	日常的な施設の維持管理業務・施設の受付業務		
	市の役割	大規模及び全体的な施設の維持管理業務・代表者会議の開催		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 地域の身近な集会所として、地域のニーズに応じた管理運営を行うことともに、親近感のある施設提供を行うことで、市民が気兼ねなく利用できる施設運営ができた。			
協働したことによる成果				
地域住民で組織された運営委員会が自主性を活かして施設を運営することで、地域の実情に沿った施設管理が行われ、利用者ニーズにきめ細かくかつ柔軟に対応することができた。				
協働に当たった課題と対応				
各運営委員会において組織の高齢化・固定化が組織の運営に影響を及ぼしはじめている。継続的に運営委員会が地域団体の運営メリットを活かしたふれあいの家の管理運営を行えるよう、幅広い視点から指定管理者制度の運用について検討していく。				

協働事業名	コミュニティ推進事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	コミュニティづくりの推進	電話番号	042-481-7036
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
コミュニティ活動及び市民の連帯感の向上に寄与することを目的に、自治会の設立・加入促進や地域コミュニティの活性化などのコミュニティ推進事業に対し、必要な補助金を交付した。事業としては、安全対策セミナー（防災に関する講演や訓練）や防犯用ラジオの配布などを実施した。			
協働のパートナー	調布市自治会連合協議会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 コミュニティ
			関連施策※ 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	地域自治会の活性化に向けた取組の実施	
	市の役割	地域自治会・地区協議会などの団体情報の提供、会議への参加、広報協力（市報・市HPへの掲載など）、財政的支援	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 自治会に対する効果的な支援を検討していく中で、コミュニティ推進事業を実施する調布市自治会連合協議会に対し、必要な補助金を交付した。		
協働したことによる成果			
自治会連合協議会の主体的な活動を、市が側面から支援することで、地域自治会の必要性や自治会として大きくまとまることの重要性を市民にわかりやすく浸透させることができた。			
協働に当たった課題と対応			
パートナーと定期的に意見交換する場を持ち、お互いの認識を共有した。また、パートナーの会合（理事会）や各種活動に参加し、パートナーの状況把握に努めた。			

協働事業名	自治会といっしょに！キャンペーン	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	自治会を通じた市政情報の提供	電話番号	042-481-7036
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
自治会組織の育成を図り、また自治会の輪を広げていくことを目的に、「自治会といっしょに！」をテーマとして、令和2年11月の1箇月間での、キャンペーンを実施した。			
協働のパートナー	調布市自治会連合協議会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 コミュニティ
			関連施策※ 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	勉強会の開催、PR用ティッシュの作成、キャンペーンPR活動	
	市の役割	市報及び市ホームページによる広報協力、場所の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 自治会に対する効果的な支援を検討していく中で、自治会の連合組織である調布市自治会連合協議会との協働事業を実施することとなった。		
協働したことによる成果			
自治会の役員を中心に勉強会・相談会を実施した。また、市民を対象にした安全対策セミナーを自治会連合協議会と協働して実施した。また、勉強会等において自治会支援を行うことができた。			
協働に当たった課題と対応			
自治会支援は継続して取り組んでいく内容である。次年度以降も引き続きキャンペーンとして継続的に取り組んでいくとともに、定期的に自治会への加入促進を行うなど、年間を通じての支援を充実させていくことも必要である。効率的かつ効果的な進め方を検討していく。			

協働事業名	市民活動支援センターの運営	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	市民活動支援センターの運営	電話番号	042-481-7036
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市民活動支援センターは「市民活動は市民が支える」という観点から、運営団体を公益的な社会貢献活動を行う社会福祉法人社会福祉協議会に業務委託し、市との協働事業と位置付け、運営を行っている。運営に当たっては、市民活動支援センター運営委員会において意見交換し、市民のニーズを運営方針に反映させるとともに、定例の打合せの場を活用し、設置者と運営団体の意思疎通を図った。			
協働のパートナー	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 コミュニティ
			関連施策※ 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	施設運営（様々な市民活動を専門性や経験、場所、人的ネットワークを活かしてサポート）	
	市の役割	施設設置、運営への参加	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 地域で活躍する様々な分野の市民活動を行っている個人や団体に対し、それぞれの活動を相互に交流、連携させるための拠点として支援を行った。		
協働したことによる成果			
パートナーの専門性を活かし、市民のニーズに柔軟に対応し、各事業へ多くの市民の参加を得ることができた。また、長年培ったネットワークやコーディネート力を活用することで、市民参加の推進及び多くの市民活動団体の協力を得ることができた。			
協働に当たった課題と対応			
市とパートナー間での認識の差が生じたり、運営委員会において意見がまとまらないことがある。そのため、運営委員会前に定例の打合せを実施し、情報共有を行うことで認識や情報の統一、方向性の確認をした。また、月間・年間の事業の進捗状況の把握・管理を実施している。			

協働事業名	いやしとふれあいの旅事業 （宿泊料金の割引、調布発着のバスツアー）	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	調布市いやしとふれあいの旅事業	電話番号	042-481-7122
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
本事業は、特定行楽施設のある地域の人々や自然とのふれあいを通じて、市民の保養と心身の健康増進に寄与することを目的として、京王観光株式会社、さくらツーリスト株式会社と事業協定を結び、市民への宿泊料金の割引や、調布発着のバスツアーを実施するもの。被災地支援を目的とした宿泊施設の選定も行った。各パートナーから企画を受け、市は事業紹介や参加者募集等の広報を行った。また、各パートナーが宿泊料金を割引する優待施設を宿泊費助成の対象施設としている。			
協働のパートナー	京王観光株式会社、さくらツーリスト株式会社		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 コミュニティ
			関連施策※ 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	プランの企画・実施・報告	
	市の役割	市報等での広報 事業全体の調整	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 専門性を伴う事業のため、利用者ニーズにあった企画を安全に実施するためには、旅行分野に精通したパートナーと協働で行うことが必要。		
協働したことによる成果			
対象となる宿泊施設の選定やバスツアーの企画・実施等旅行会社ならではの専門性を活かした調布市民向けの事業を実施している。			
協働に当たった課題と対応			
パートナーが複数いるため、事業に対する考え方や、各パートナーで把握している利用者ニーズ・課題を共有するため、定期的に関係者が集まる機会を設けて情報交換等を行っているほか、随時、連絡を取り合い調整を図っている。			

協働事業名	市民向けパソコン・タブレット講座	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	市民団体との協働によるIT講習の実施	電話番号	042-481-7036
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布パソコンサークルが行う市民向けのパソコン講座等（エクセル・ワード・タブレット）を開催した。主な役割分担として、市が市報及び市ホームページによる広報や、講座を実施する会場確保を行い、講座の運営を調布パソコンサークルが担当した。			
協働のパートナー	調布パソコンサークル		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習, コミュニティ
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	講座の企画・運営全般・パソコン機器等の手配	
	市の役割	市報及びホームページによる広報協力, 場所の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業		
	平成11年度の事業開始当初, 市の企画で開催されたパソコン教室において募った, 市民ボランティアのインストラクターが, 調布パソコンサークルという団体を立ち上げ, パソコン教室を継続して実施している。		
協働したことによる成果			
市民団体と協働することにより, 費用面など市民がより受講しやすい環境を整えることができた。講座に参加しパソコンスキルを身に付けることが可能となり, 生涯学習の魅力を伝える機会となっている。また, 市民活動団体が講師であるため, 市民にも親しみやすく, 講座受講後も継続した関係を築くことができるなど市民交流につながる機会にもなっている。			
協働に当たった課題と対応			
今後の事業展開の認識を共有するために, 打合せの回数を重ね, 意識の共有や, 新たな協働の方法などについて検討していく。			

協働事業名	調布まち活フェスタ	所管部課名	生活文化スポーツ部 協働推進課
事務事業名	コミュニティづくりの推進	電話番号	042-481-7036
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
地区協議会をはじめとする市民団体や, 市内のまちづくり活動（地域活動等）の更なる活性化を図るため, 有志により実行委員会を組織して準備を行い, 地域の様々な団体による活動のPRや出演を通じて「多世代の誰もが楽しめるイベント」を実施した。令和2年度は, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 初めてオンラインを活用して開催した。			
協働のパートナー	まち活フェスタ実行委員会, 調布市市民活動支援センター（社会福祉法人調布市社会福祉協議会）		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 コミュニティ
			関連施策※ 15地域コミュニティの醸成
役割分担	パートナーの役割	企画・イベント当日の展示物の作成。会場全体の運営	
	市の役割	広報・事務局のサポート	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業		
	多くの市民に向けて市民活動をPRするため, 幅広い世代の実行委員が力を合わせ, コロナ禍においても誰もが楽しめる様々な企画の運営（オンライン開催）を行い, 交流を図ることができた。		
協働したことによる成果			
実行委員会を通じた実行委員同士のつながりやアイデアから, コロナ禍にもかかわらず様々な企画を実施し, 多くの市民活動団体の出展が実現できた。多世代の方々が実行委員として参加する事で交流が図られ, 調布市の様々な魅力を共有し合うなど, 互いに多くのことを学び取る体制を整えることができた。			
協働に当たった課題と対応			
継続して開催することで, 事業実施についてのノウハウは蓄積されてきているが, 市民等で組織される実行委員のメンバーが各年で流動的なこともあり, 進行が事務局主導になる傾向がある。平成30年度から市民活動支援センターが事務局を担っており, 今後, センターの持つ人脈など, 強みを生かしながら, 実行委員の確保や実行委員の主体性をより引き出すことにより, 継続的に事業を実施できるような体制を検討していく必要がある。			

協働事業名	男女共同参画推進フォーラム「しえいくはんず」の開催	所管部課名	生活文化スポーツ部 男女共同参画推進課
事務事業名	男女共同参画啓発・相談事業の実施	電話番号	042-443-1213
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
国の男女共同参画推進週間に合わせて、男女共同参画に関するイベントを開催するもの。参加団体を公募し、6団体による実行委員会及び3団体の協力により市民プラザあくろすで実施した。期間中、新型コロナウイルス感染拡大防止のため企画ごとに定員を設け、参加者はスタッフを含め延べ236人であった。また、記録集を200部発行した。			
協働のパートナー	男女共同参画推進フォーラム実行委員会	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	男女共同参画
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	31人権の尊重・男女共同参画社会の形成
役割分担	パートナーの役割	会議への参加、フォーラムの運営	
	市の役割	会議運営、意見集約、資料提供、フォーラムの運営	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 新たな団体の参加を積極的に呼び込み、ネットワークを広げている。		
協働したことによる成果			
新規の市民団体の参加や協力を得ることができ、実施した講演会や各種ワークショップ等について、フォーラムに対する新たな視点を取り入れることができた。			
協働に当たった課題と対応			
新たな参加団体を増やしていくとともにフォーラムを推進するため、実行委員が主体的に関わり、フォーラムの円滑な運営ができるよう調布市市民プラザあくろすの指定管理者の協力を得ながら事務局と調整していく。			

協働事業名	女性の「キャリア研究」についての講演	所管部課名	生活文化スポーツ部 男女共同参画推進課
事務事業名	男女共同参画啓発・相談事業の実施	電話番号	042-443-1213
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
就職前の大学生に対しキャリア研究についての講演を行い、女性が人生で遭遇する可能性がある問題について認識を深めることで、社会的・経済的自立の重要性を考える機会を与えた。大学講義の一環として講演を実施することで、より多くの学生に対して意識啓発を実施した。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで実施した。			
協働のパートナー	白百合女子大学	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	男女共同参画
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	31人権の尊重・男女共同参画社会の形成
役割分担	パートナーの役割	会場等の環境整備、日程調整	
	市の役割	大学と講師間の取りまとめ、啓発物の配付	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 毎年1回（2日間）実施している。		
協働したことによる成果			
講師は男女共同参画推進センターの相談員であることから、大学生に対する講演を機に、センターの周知につながった。			
協働に当たった課題と対応			
大学の講義の一部として行うため、確実な準備を行っていく必要がある。			

協働事業名	女性のための起業セミナー	所管部課名	生活文化スポーツ部 男女共同参画推進課
事務事業名	男女共同参画啓発・相談事業の実施	電話番号	042-443-1213
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
女性の多様な働き方の一つとして、起業という選択肢があることを啓発し、起業への支援に繋げる。セミナーでは、起業経験のある講師による講演のほか、産業労働支援センター、男女共同参画推進センター、日本政策金融公庫、多摩信用金庫の各担当者が事業の紹介を行った。			
協働のパートナー	日本政策金融公庫、多摩信用金庫		事業提案者 市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 男女共同参画
			関連施策※ 31人権の尊重・男女共同参画社会の形
役割分担	パートナーの役割	日本政策金融公庫、多摩信用金庫	
	市の役割	企画運営、会場確保、申込受付、広報（主たる事務は産業労働支援センターで実施）	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 起業への支援につなげるため、毎年1回実施している。		
協働したことによる成果			
市の産業労働支援センター、男女共同参画推進センターに加え、共催者の日本政策金融公庫と多摩信用金庫の職員も参加することで、起業に向けた資金調達等について、参加者が起業についてより具体的に理解できる、実践的なセミナーとなった。			
協働に当たった課題と対応			
4者での共催事業であるため、準備段階からの情報共有が欠かせない。市民への広報についても引き続き、4者のノウハウを活かして行っていきたい。			

協働事業名	LGBTセミナー	所管部課名	生活文化スポーツ部 男女共同参画推進課
事務事業名	男女共同参画啓発・相談事業の実施	電話番号	042-443-1213
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
誰もが自分らしい生きかたができる社会を目指すため、LGBTQを取り巻く課題を当事者視点で考える、疑似体験型ワークショップをオンライン（ZOOM）形式により開催した。地域（電気通信大学）の学生や職員を対象にしたワークショップに市職員も参加した。			
協働のパートナー	電気通信大学、津田塾大学、NTT技術総合研究所、アフラック生命保険株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 男女共同参画
			関連施策※ 31人権の尊重・男女共同参画社会の形
役割分担	パートナーの役割	ワークショップの運営	
	市の役割	ワークショップへの参加	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 市の職員が地域大学のワークショップに参加することで、行政と地域における連携の強化を図るため。		
協働したことによる成果			
市の職員がワークショップに参加し、LGBTQを取り巻く課題について学生及び教員との多様な意見交換を行うことで、情報共有が図れた。			
協働に当たった課題と対応			
オンラインを活用したワークショップを行うに当たっては、通信環境の確保が必須となる。			

協働事業名	市内映画・映像関連企業や市民団体等と連携した「映画のまち調布」の推進	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	「映画のまち調布」の推進	電話番号	042-481-7180
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施したうえで、乳幼児を対象とした定期的な映画鑑賞会、中学生の映画づくりワークショップ、野外上映会「ねぶくろシネマ」、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2021」関連事業の実施など（一部新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止）、映画・映像を「つくる」、「楽しむ」、「学ぶ」をテーマに、市内映画・映像関連企業や市民団体などと連携した調布市ならではの各種イベントを開催した。			
協働のパートナー	子どもたちと映画寺子屋、調布シネマクラブ、角川大映スタジオ、日活調布撮影所、ねぶくろシネマ実行委員会など	事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	分野	観光・魅力発信
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	17魅力ある観光の振興
役割分担	パートナーの役割	各事業の企画立案・運営	
	市の役割	各事業の企画立案・運営、会場確保、市報や市ホームページ等での広報、補助金の交付	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 各事業において、参加者の感想等を各パートナーが次年度の取組に反映するなど、より良い企画となるよう検討を重ねながら実施している。		
協働したことによる成果			
パートナーとの共催事業においては、パートナーが主体的に事業を企画し、パートナーの持つネットワークやノウハウを活かすことで、多くの事業協力者や参加者を得ることができた。また、映画・映像関連企業の協力により、「映画のまち調布 シネマフェスティバル2021」（一部新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止）を実施したほか、中学生のための映画づくりワークショップの実施など、子どもから大人まで幅広い市民が様々な角度から映画に触れ、興味を持っていただける事業展開ができ、「映画のまち調布」の推進につながった。			
協働に当たった課題と対応			
市が補助金を交付している事業においては、継続的に事業を実施していくためにも、協賛金を募るなどパートナーである団体の自主財源確保に向けた支援等を検討する必要がある。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一部事業が中止となった。今後については、オンライン開催なども含め、安全かつ充実したメニューで開催できるよう実施方法を検討していく必要がある。			

協働事業名	商店街活性化の推進事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	商店街活性化の推進事業	電話番号	042-481-7539
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
新型コロナウイルス感染拡大の影響による休業・営業自粛等で苦境に立たされた飲食店等を支援するため、調布青年会議所との共催による「我が家のおすすめテイクアウト事業」を実施したほか、調布市スーパープレミアム付商品券事業においては、プレミアム分の商品券を大型店以外での利用に限定し、商店街活性化に向け、商工会及び市内事業者と連携して取り組んだ。また、商店会ごとの来訪者の特徴やニーズを踏まえ、来訪者増加に向けた継続的なイベントとして実施される各商店会主催事業を、地域に密着した取組として支援した。さらに、平成24年3月に策定した「調布市中心市街地活性化プラン」に掲げる活性化事業の今後の展開について、事業主体である地元商店会や商工会等と協議検討を行った。			
協働のパートナー	市内商店会、市内事業者、調布市商工会、調布青年会議所	事業提案者	市及びパートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	分野	産業・労働
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	16活力ある産業の振興
役割分担	パートナーの役割	商店街活性化事業の検討及び実施、市事業への参加・協力	
	市の役割	補助金の交付、事業運営への協力、中心市街地活性化プランの進捗管理	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 各種活性化事業において、継続事業へ新たな商店会や市内事業者の参加を得るなど、より広範に事業展開を図っている。		
協働したことによる成果			
市内事業者や商店会、商工会、金融機関等との連携により、商店会が開催するイベントや地域振興事業の支援に加え、これまでにないほど多くの市内事業者と連携した事業の実施など、地域経済の回復・活性化につながった。			
協働に当たった課題と対応			
各団体が、コロナ禍における新しい日常に対応した自主的な事業に取り組み、地元団体を中心とした事業の実施及び運営組織を構築していくことが課題である。各事業ごとの連携のパートナーについて、固定化することなく関係団体を加えながら、活動の幅を広げられるような意識付けが重要である。			

協働事業名	商工会事業の支援	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課	
事務事業名	商工会事業の支援	電話番号	042-481-7539	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
市内産業の発展に向けて、調布市商工会の経営改善普及事業や地域総合振興事業をはじめ、商業部会、工業部会、建設業部会、サービス業部会、青年部、女性部の部会活動を支援した。				
協働のパートナー	調布市商工会	事業提案者	市及びパートナー	
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	産業・労働
			関連施策※	16活力ある産業の振興
役割分担	パートナーの役割	商工会事業の検討及び実施		
	市の役割	補助金の交付、事業運営への協力		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 市と連携する機会の多い調布市商工会とは、定期的な意見交換の場を設けながら、各種連携事業についての情報共有や協議を行いながら、事業展開している。			
協働したことによる成果				
市内消費を活性化するため、商工会が実施する歳末スクラッチカード事業を当初の予定から拡大して実施するなど、「バイ調布運動（市内消費）」の促進に積極的に取り組み、商工会をはじめとする市内事業者、市内商店会との連携の下、地域経済の活性化につなげた。				
協働に当たっての課題と対応				
各団体が主体的に事業に取り組み、地元団体を中心とした事業の実施及び運営組織を構築・強化していくことが課題である。				

協働事業名	調布駅前から盛り上げる会	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課	
事務事業名	地域経済活性化に向けた商業施設等との連携	電話番号	042-481-7539	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
市内商店会、商工会に加え、大型店舗（調布PARCO、トリエ京王調布、イオンシネマ シアタス調布）、行政が有機的に連携し、地域経済の活性化につなげることを目的とした「調布駅前から盛り上げる会」を定期的で開催した（新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年より実施回数減）。また、映画の半券を活用した割引サービスの実施など、地域経済の回復・活性化に向けて実施した。				
協働のパートナー	調布駅前から盛り上げる会 （京王電鉄株式会社、イオンエンターテイメント株式会社、上布田商栄会、小島商栄会（バブル含む）、調布銀座商栄会協同組合、調布中央商店会、天神通り商店会、調布市商工会、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団、市）	事業提案者	市	
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	産業・労働
			関連施策※	16活力ある産業の振興
役割分担	パートナーの役割	調布駅前における意見交換・事業協力など		
	市の役割	情報提供や、運営補助など円滑に事業・協議を推進		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成29年秋のトリエ京王調布・イオンシネマ シアタス調布の開業を契機に、関連団体が連携することで、地域経済の活性化に繋げるために連携体制の継続を目指した。			
協働したことによる成果				
市や商工会をはじめ、調布駅前の商店会・大型店等が集まり、定期的に連絡会を開催したことで、コロナ禍における懸念事項の情報交換や率直な意見交換を行うことができ、市内事業者の実情を把握できる場として活用できた。				
協働に当たっての課題と対応				
各団体の意向を踏まえ、地域経済活性化に向けて、地域性に適した新たな手法の検討・構築が課題である。				

協働事業名	調布市観光協会事業の促進	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	調布市観光協会事業の促進	電話番号	042-481-7185
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布の歴史と映画のまち・芸術文化・スポーツなどの特色を有する市の観光事業の振興を図り、産業の発展と文化の向上に寄与することを目的として、調布市観光協会と連携し、地域資源を活用した観光事業を実施するほか、観光案内所の運営支援や特色ある観光情報の発信や提供を実施している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光振興に向けた取組機会が例年と比較し減少したが、「ゲゲゲ忌」の実施、各種イベントの広報・協力、調布市観光ボランティアガイドの支援、京王線国領駅・西調布駅における列車接近メロディーの導入など、観光協会と連携し、実施可能な事業を実施した。また、新しい生活様式に対応した取組として実施した、ランチマーケット等の市内飲食店との連携事業、オンラインツアーの開催など、新たな観光・産業振興の取組についても支援した。			
協働のパートナー	調布市観光協会		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 観光・魅力発信
			関連施策※ 17魅力ある観光の振興
役割分担	パートナーの役割	観光協会事業の検討・実施	
	市の役割	補助金の交付、事業への支援	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 パートナーとの円滑な連携体制を活かし、様々な事業展開を行っている。		
協働したことによる成果			
各観光事業を、パートナーとの連携の下、多くの市民や関係団体等の参加や協力を得ながら実施することができた。また、各関係機関と協働することで、新型コロナウイルス感染拡大による市内事業者への影響を即時的に把握することができ、観光振興による地域経済の回復・活性化に取り組むことができた。			
協働に当たった課題と対応			
観光協会を中心として、各種関係団体と連携した事業展開を図ることができたが、準備段階や開催後において、観光協会以外の各種関係団体とのより一層の協力体制を築くことが課題である。			

協働事業名	「水木マンガの生まれた街 調布」の推進事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	調布市名誉市民水木しげる氏関連事業	電話番号	042-481-7183
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市は、名誉市民である故・水木しげる氏に関連し、株式会社水木プロダクションの協力の下、庁用封筒、各種発行物などへのキャラクター活用など、各部署において水木キャラクターを活用した活性化事業を幅広く展開しており、「水木マンガの生まれた街 調布」として特色ある事業を推進している。令和2年度においても、市内にある鬼太郎グッズ専門店と連携した市のPRや、水木氏の命日である11月30日「ゲゲゲ忌」を中心に、水木氏ゆかりの地を巡るスタンプラリーや調布駅前広場・鬼太郎ひろばでのイベント等を実施した。また、アニメ聖地として、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」第6期の制作会社である東映アニメーション株式会社の協力の下、調布市×「ゲゲゲの鬼太郎」第6期聖地巡礼マップ（総集編）やアニメ「ゲゲゲの鬼太郎」調布市特別住民票の発行、「ゲゲゲ忌」におけるアニメ特別上映会を実施したほか、アニメツーリズム協会との広報連携など、特色ある取組を展開した。そのほか、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組として、WEB会議用背景アマビエ（イラスト水木しげる）の画像作成、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」第6期の鬼太郎とねこ娘からのメッセージ動画の作成を行い、市ホームページで公開した。			
協働のパートナー	株式会社水木プロダクション、調布市観光協会、布多天神社、鳥取県、境港市、東映アニメーション株式会社、イオンエンターテイメント株式会社、株式会社ジョイント、株式会社きさらぎ、一般社団法人アニメツーリズム協会など		事業提案者 市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 観光・魅力発信
			関連施策※ 17魅力ある観光の振興
役割分担	パートナーの役割	水木キャラクター使用等にかかる使用許可、事業協力	
	市の役割	水木キャラクター活用事業の検討及び実施	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 パートナーとの円滑な連携体制を活かし、様々な事業展開を行っている。		
協働したことによる成果			
水木キャラクターを活用した特色ある事業を多岐にわたって展開することにより、「水木マンガの生まれた街 調布」の推進を図ることができた。また、アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」を活用した事業を各パートナーと協働で実施することで、水木作品のファンに加え、多くのアニメファンに調布市を認知してもらう機会が増え、新型コロナウイルス感染拡大の影響下においても、「水木マンガの生まれた街 調布」を十分にPRすることができた。			
協働に当たった課題と対応			
パートナーとの円滑な連携体制を維持していくとともに、特色ある新たな取組についても検討を行う。「ゲゲゲ忌」については、より効果的に事業を実施するため、連携する団体等を拡大していくことが引き続き重要である。			

協働事業名	ICTを活用した情報発信による観光振興及び地域経済活性化促進事業（調布市・一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団インバウンド観光推進に関するパートナーシップ協定）		所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	インバウンド対策の推進，多様な主体と連携した観光情報の発信		電話番号	042-481-7183
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
訪日外国人観光客等に対して，調布市と一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団が有する観光情報・ノウハウを活用し，相互連携により取り組むことで，観光関連情報，周辺の避難所情報等を多言語化して提供するサービス「Guidoor（ガイドア）」を実施し，調布市のインバウンド観光推進を図った。				
協働のパートナー	一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団		事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	観光・魅力発信
			関連施策※	17魅力ある観光の振興
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営，広報		
	市の役割	事業の企画，広報，施設との調整		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 財団の代表理事が長年調布市にお住まいであることから，2019年，2020年に向けて調布市のインバウンド観光推進を図りたいとの提案があり，協定の締結に至り，インバウンド観光推進の事業展開を行っている。			
協働したことによる成果				
「Guidoor」のウェブサイト（10か国語で表示可能）に誘導するQRコード付のパネル・ステッカーを，深大寺や各観光施設等に設置することで，訪日外国人観光客等に対して，調布市の観光関連情報，周辺の避難所情報等を提供することが可能となった。令和元年度から地方創生推進交付金を活用し，令和2年度は「特集コース（映画のまち 調布ロケ地巡り，水木マンガの生まれた街 調布コース，深大寺そば特集）」の作成やアクセス向上のためのWEB広告を実施した。				
協働に当たっての課題と対応				
より多くの訪日外国人観光客等にアクセスしてもらうよう，PR方法などを工夫していく必要がある。				

協働事業名	就労支援セミナー等の開催		所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	就労の支援，就労セミナー，就職面接会の実施		電話番号	042-443-1217
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
就労に向けた準備，機会の提供を図るため，関係機関と連携し各種セミナーや就職面接会を実施した。				
協働のパートナー	ハローワーク府中，厚生労働省東京労働局，東京都労働相談情報センター 八王子事務所，東京しごと財団，東京都産業労働局		事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	産業・労働
			関連施策※	11雇用・就労の支援
役割分担	パートナーの役割	各種セミナー等の主催・運営		
	市の役割	各種セミナー等の広報，会場の提供		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 調布市文化会館づくり，調布市市民プラザあくろすという駅から近い施設で開催することで，一定程度の集客が見込めることから，パートナー機関からは好評である。			
協働したことによる成果				
この協働事業では，特に，若者・女性に対する就労支援を手厚くしており，就労支援セミナーに対する満足度は高い。セミナーを通じて，就労に対する気運醸成を図り，就労意欲の向上につながった。				
協働に当たっての課題と対応				
雇用状況は新型コロナウイルス感染拡大の影響により，弱さが増しており（令和3年3月現在，全国完全失業率2.6％，前月より0.3p低下），雇用者数等の動きに底堅さがみられる。新規求人数はこのところ横ばい圏内となっている。一方，公共機関が行う就労支援セミナー等は時期，内容及び新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い参加人数は増減する。また，就労支援セミナーは，就職に直結する就職面接会と異なり，就労に対する心構えや，社会人としての基礎知識の習得及びパソコン講習等実践に即したところに重きを置いている。新型コロナウイルス感染症に十分注意するとともに，各パートナー機関と連携しつつ，セミナーの企画段階から参画し，受講者ニーズを汲み取って，より就労に直結する成果を出していく。				

協働事業名	金融機関と連携した民間ノウハウを活用した中小企業支援事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 産業振興課
事務事業名	中小企業・小規模事業者の支援	電話番号	042-443-1217
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市は、中小企業等に対するきめ細かな支援策を有する金融機関と連携し、調布市における中小企業等の振興及び地域経済の活性化を図るため、5つの金融機関と、「中小企業等支援に関する包括協定」を締結し、協定に基づき、各種経営支援のためのセミナーを開催した。			
協働のパートナー	多摩信用金庫、三井住友銀行、りそな銀行、みずほ銀行及びみずほ信託銀行、西武信用金庫	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	産業振興
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	16活力ある産業の推進
役割分担	パートナーの役割	セミナーの開催・運営	
	市の役割	セミナーの広報、会場の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業	令和2年度は、連携する金融機関と同一テーマのセミナーを計3回実施した。企画段階から、市内事業者や社会情勢に即したものを提供できるように調整を図ることで、更なる経営支援の向上が期待される。	
協働したことによる成果			
各協定締結金融機関との連携の下、各機関の主催する各種セミナーについては、一部を除き新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い中止となったが、各機関の市内店舗等に設置している広報スタンド等を活用し、中小企業・小規模事業者へ各種情報提供を広く行ったほか、市内当該事業者に対して適切な情報提供を行えた。			
協働に当たった課題と対応			
より実態に即した中小企業・小規模事業者支援を進めていくため、当該事業者にとっての課題・問題を抽出し、喫緊の課題解決を手助けするように、各金融機関と連携していく。			

協働事業名	調布市体育協会事業の支援	所管部課名	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課
事務事業名	調布市体育協会事業の支援	電話番号	042-481-7496
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
広く市民にスポーツ、レクリエーションを普及・奨励し、市民の体力向上とスポーツ精神の涵養ならびに市民相互の融和を図ることを目的に、（公社）調布市体育協会と連携し、調布市民体育祭、リフレッシュ体操スクール、中学校走り方教室を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響による事業の中止もあったものの、感染拡大防止対策を講じたうえで実施し、また、動画配信の活用を行うなど、市民がスポーツに親しむ機会の創出を図った。			
協働のパートナー	公益社団法人調布市体育協会	事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	分野	スポーツ
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	14市民スポーツの振興
役割分担	パートナーの役割	各事業の企画・運営、各事業への参加者募集	
	市の役割	各事業の企画・運営に関する支援、市報掲載等による広報	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業	コロナ禍でも、市民体育祭は各競技における感染拡大防止ガイドラインに基づき、28競技中12競技実施した。またコロナ禍での運動不足を解消するため、新たな取組としてオンラインでの動画配信を行った。	
協働したことによる成果			
スポーツ大会やスポーツイベントの運営に実績のある調布市体育協会へ業務委託することによって、そのノウハウを活用し、各事業において効果的に実施できた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会が中止となる等の影響はあったものの、市民体育祭は28競技中12競技を実施したほか、リフレッシュ体操スクールでは動画配信も活用するなど、コロナ禍においても市民スポーツの振興を図ることができた。また、中学校走り方教室は体育協会・指導室との連携事業として実施し、トップアスリートから直接学べる貴重な機会を提供できた。			
協働に当たった課題と対応			
パートナーである調布市体育協会は、調布市総合体育館の指定管理者として、当該施設の管理・運営を担っている団体であり、各共催事業の準備に限らず、市と定期的に打ち合わせ等を行っており、日頃から意思疎通を図ることで、各共催事業においても、円滑な運営につながっている。今後は、さらなる主体との連携により、今まで以上の事業の内容の充実を図るよう検討していく。			

協働事業名	FC東京「調布の日」事業	所管部課名	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課
事務事業名	FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進	電話番号	042-481-7496
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
FC東京が、味の素スタジアムでのホーム戦開催時に、調布市民招待枠の設定に加えて、スタジアム横の青赤パークにて調布市のPRコーナーを設置する「調布の日」事業をコロナ禍においてオンラインで実施。FC東京公式YouTubeチャンネル「青赤パークオンライン」にて、FC東京の石川直宏クラブコミュニケーター及び羽生直剛クラブナビゲーターから調布の魅力及びFC東京と市の連携を多くの視聴者に向けて発信した。			
協働のパートナー	東京フットボールクラブ株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 スポーツ
			関連施策※ 14市民スポーツの振興
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、場所の提供	
	市の役割	企画・広報・運営・準備等のサポート	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインでの事業実施となったが、FC東京の発信力を活かし、より多くの市民やファン・サポーターへ調布市のPRを図った。		
協働したことによる成果			
図書館が作成した「FC東京選手の私がすすめるこの一冊」や「パラハートちょうふ」など市の取組を、FC東京の発信力を介して広く周知することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
J1リーグの日程、FC東京のホーム戦のタイミング等により実施日が決まるため、実施日まで期間がない場合は、内容やゲストの選出などについて、FC東京や庁内各課とのスピード感を持った事前の調整が必要となる。また、今後同じくFC東京のホームタウンである近隣自治体や対戦相手のチームのホームタウンとも連携して規模を拡大していきたい。			

協働事業名	FC東京による地域貢献活動支援	所管部課名	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課
事務事業名	FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進	電話番号	042-481-7496
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
FC東京との連携事業として、市民のスポーツ振興、青少年の健全育成に取り組んだ。調布市少年サッカー連盟に加盟しているチームの子どもたちを対象とした「小学生対象のサッカー教室」と、市内サッカークラブの指導者向けの講習会をオンラインで実施したほか、市内在住・在園の年長児の親子及び市内在住・在学の小学生を対象とした「子どもサッカー体験教室」や、障害児・者のフットサルスクール「あおぞらサッカースクール」の交流会事業を実施した。また、コロナ禍における運動不足解消のため、石川クラブコミュニケーターとプロのトレーナーによる「自宅でできる簡単エクササイズ」を実施した。			
協働のパートナー	東京フットボールクラブ株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 スポーツ
			関連施策※ 14市民スポーツの振興
役割分担	パートナーの役割	各教室・事業等の企画・運営	
	市の役割	企画・広報・運営・準備等のサポート	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえででの事業実施や、オンラインの活用などにより、継続した事業実施ができた。また、コロナ禍における新たな取組として少人数での健康増進事業を実施した。		
協働したことによる成果			
プロサッカーチームであるFC東京の知名度やコーチ力により、より多くの市民にサッカーに親しんでもらうことができ、FC東京を応援する機運を醸成するなど市全体としてのスポーツ振興につなげることができた。令和2年度の各事業への参加者数は、小学生対象のサッカー教室92人、オンライン指導者講習会12人、子どもサッカー体験教室139人であった。今年度初の試みで実施した「自宅でできる簡単エクササイズ」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数を制限して実施したが、参加者からも大変好評で、引き続き同様の事業を実施していきたいと考える。			
協働に当たっての課題と対応			
各事業は例年人気が高く、より多くの市民が参加できるように、新規教室の拡充、各教室等の開催回数や時期について、パートナーと協議・検討する必要がある。また、オンラインを活用できる環境が整っているため、より多くの市民への周知方法を検討していきたい。			

